

第60回 農村医学夏季大学講座

すべての人々に健康を

～ COVID-19 が問いかける新しい社会のあり方～

2021 **7/9**(金) — **10**(土)

JA長野厚生連佐久総合病院
農村保健教育ホール

※ZOOM同時配信



佐久市白田健康サポートセンターうすだ健康館にて撮影

開催要領

①佐久総合病院教育ホールで受講希望の方

所定の申込用紙（コピーでも可）に記入いただき、送付願います。

FAX で申込みされた方は、必ず電話にてご確認ください。また、メールでお申込みされる方は、佐久総合病院のホームページ (<http://sakuhp.or.jp/>) をご覧ください。

- 受講料・・・ 一般 3,000 円（テキスト代・税込） ※1 日のみの受講は 1,500 円
高校生以下 1,000 円（テキスト代・税込） ※1 日のみの受講は 500 円
- 定員・・・ 50 名（長野県佐久地区管内在住者：佐久市、小諸市、北佐久郡、南佐久郡）
新型コロナウイルスの感染状況により、無観客での開催とさせていただきます。その場合は、事前にご連絡させていただきます。
- 支払方法・・・ 今回は当日精算のみとさせていただきます。来場いただいた際に受付で精算をお願いいたします。

②ZOOM を使用して受講希望の方

以下の QR コード、または佐久総合病院のホームページ (<http://sakuhp.or.jp/>) にアクセスいただき、お申込みフォームから登録・決済をお願いします。

両日受講希望の場合は、ZOOM ID 配信の都合上、各日の申込みフォームから申込み及び決済をお願いいたします。

7/9 受講希望の方▶



7/10 受講希望の方▶



- 受講料・・・ 一般 3,000 円（テキスト代・税込） ※1 日のみの受講は 1,500 円

※一人単位での申込みと受講をお願いいたします。

※ZOOM ID を第 3 者へ譲渡・販売・公開する行為は禁止いたします。

※ZOOM で参加される場合、高校生以下の方も一般料金と同様になります。

- 支払方法・・・ お申込みフォームの支払い方法に従い、お支払いをお願いいたします。
決済完了後、ZOOM ID とパスワードが、ご登録いただいたメールアドレスに配信されます。
お支払方法は、クレジットカード決済・指定コンビニ決済・ペイジー決済が選択できます。

※受講料の払い戻しは原則致しませんので、ご了承ください。

- 申込締切日・・・ 7 月 2 日（金）

開催場所
ご案内



申込み方法・問合せ・連絡先

- ◆ 所定の申込書または佐久総合病院のホームページから申込んでください（コピーでも可）。
- ◆ 受講票、領収書は事前に発行いたしません。受講当日、会場受付にてお渡しいたします。
- ◆ 申込み・問い合わせ先：佐久総合病院 第60回農村医学夏季大学講座事務局

事務局 第60回農村医学夏季大学講座事務局
長野県佐久市白田197 佐久総合病院内
(直通) TEL 0267-82-2677
FAX 0267-82-7034
<http://www.sakuhp.or.jp/>

■ 主催：JA長野厚生連/JA長野県組合長会/JA長野中央会/JA長野信連/JA全農長野/JA共済連長野/JA長野健保
■ 後援：JA全厚連/日本農村医学会/日本成人病予防会/日本農村医学研究会/長野県/信濃毎日新聞社/SBC信越放送/NBS長野放送/TSBテレビ信州/abn長野朝日放送/NHK長野放送局/佐久医師会/佐久市/小海町/佐久穂町/川上村/南牧村/南相木村/北相木村



長野県厚生農業協同組合連合会
代表理事 理事長

社 浦 康 三

今年「農村医学夏季大学講座」は節目の第60回を迎えました。昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止を余儀なくされましたが、今年は感染拡大防止策を講じ開催する運びとなりました。

これまでの長い歴史の中では、時代に即したテーマをその都度取り上げ、私たちの地域が抱える様々な課題について真正面から向き合ってきました。

今年のメインテーマは「すべての人々に健康を」、サブテーマには“COVID-19 が問いかける新しい社会のあり方”と致しました。昨年世界的流行が始まった新型コロナウイルス感染症により、日本においても医療体制は逼迫、崩壊寸前の危機的状態にまで陥っています。そのなかで、高齢者を優先にワクチン接種が始まり終息に向けた一歩を踏み出しました。

またコロナ禍において、行動制限が長期化したことによりライフスタイルや働き方など日本社会全体の仕組みが変化をしています。アフターコロナにおいて住み慣れた地域で自分らしい暮らしをどう継続できるのか。そして、弊会の理念に込められた「いのちといきがいのある暮らしを守る」をどう実現していくのか、地域のあり方を皆で考えましょう。

今回は新たにリモート・オンライン方式も試みますが、これまで以上に白熱する議論ができますことを大いに期待いたします。

開催にあたり、第一線でご活躍の講師の皆様並びにご支援を賜りました関係の皆様には厚く御礼を申し上げます。



佐久総合病院
統括院長

渡 辺 仁

1961年（昭和36年）にはじまった「農村医学夏季大学講座」は、今年で記念すべき60回目となります。コロナ禍による昨年の中止をふまえ、リモート・オンライン形式と会場参加のハイブリッド方式を採用して、感染に最大限の注意をはらいつつ開催することにしました。

この講座は当初、医学研究の紹介が主体でしたが、保健・医療・福祉に関する、その時代に即したテーマを取り上げるようになり、全国から多様な立場の人々が集まるようになりました。会場は活発な討論の場となり、さらに夜の懇親会は当然ながら大変盛り上がりました。長野県厚生連、そして佐久病院にとっても、貴重な情報交換の場であり、広報活動の場でもありました。現状では残念ながら懇親会は開催できませんが、討論できる場を何とか工夫して提供することが主催者の使命だと考えております。

今年のメインテーマは『すべての人々に健康を』としました。21世紀に入り、地球温暖化により自然災害は多発し、資本主義がその限界をみせるなか、社会の分断がすすみ格差はさらに広がりました。そこに2020年、COVID-19によるパンデミックが追い打ちをかけました。『すべての人々に健康を』は、全世界が目指すべきゴールであり、このような混沌とした時代だからこそ、この佐久の地で取り上げるべきテーマだと思っています。短い時間ではありますが、活発な討論をお願いいたします。

第60回 農村医学夏季大学講座プログラム

1日目 7月9日(金) 12:00～

時刻	テーマ	講師
12:00	受付	
12:45	開講式	
13:00～13:30	若月賞授賞式	
13:30～14:40	<p>[若月賞受賞講演]</p> <p>いのち 生命輝かそう農村の仲間たち ～ウイズコロナの時代に～ (地域包括制度を实らせて)</p> <p>今、世紀難、人類難、地球難とも言えるCOVID-19パンデミックの嵐の中で、我々日本国民はピンチをチャンスに能天気な私である。 ベストにより宗教革命やルネッサンス、スペイン風邪も科学を中心に社会の革命を推進した。今回も、そうなって欲しい、必ずなると思慮浅い楽道家(optimist)は信じている。 何とんでも小生が主張する東京一極集中や少子化という真の国難が白日に曝された。中曽根内閣の臨調、小泉・竹中・宮内ラインの新自由主義や効率化追求の政策が、もの見事に破綻した。 聖域なき改革の美名の下、医療や教育を切り裂き、江戸時代から明治、大正と綿々としてきた国策をかなぐり捨てた結果が今日のドタバタ劇である。 マスク、手袋、ガウン、消毒薬、人工呼吸器が無い、足りない。保健所、入院ベッド、重症者のICU、感染症専門医、無い無いづくしである。 国家安全保障で武器や軍隊に注力し、国民の安全を軽んじた結果である。教育は大学の運営交付金を削り、日本学術会議にちょっかいを出して、ワクチンも欧米のみならず、中国・インドにも後れをとった。 医療・介護・教育と仕事、特に第一次産業を中心とした街づくり(生き残り)国造りに力を合わせて引き戻そう。山古志村の様なメルヘンチックな村々を孫や子に残すためにも。 コロナの取束より寿命が先かと常に最終公演と感じている。</p>	<p>一般社団法人 全国公私病院連盟 会長 特定非営利活動法人 地域医療・介護研究会 JAPAN 会長 邊見 公雄 氏</p>
14:40～15:00	休憩	
15:00～16:10	<p>[基調講演]</p> <p>中村哲医師の歩いてきた道 これまでとこれから</p> <p>中村哲医師は1984年よりパキスタン北西辺境州ベシャワールにハンセン病根絶計画に参加した。当時は300万人が戦争難民としてベシャワールに逃れ、必然的に難民支援医療に参加。以来2000年までにアフガニスタン東部山岳地域4診療所とPMS病院を設立した。同年より始まる大干ばつに対し1600本の井戸を掘り、さらには「百本の診療所より1本の用水路」と灌漑用水路事業を始め、2019年までに「緑の大地計画」として16,500ヘクタールの農地を復興した。</p>	<p>ベシャワール会 会長 Peace(Japan)Medical Services(平和医療団日本) 総院長 村上 優 氏</p>

メインテーマ

すべての人々に健康を ～COVID-19が問いかける新しい社会のあり方～

2日目 7月10日(土) 8:30～

時刻	テーマ	講師
8:30	受付	
9:00～10:10	<p>[講演]</p> <p>感染症に強い地域社会をめざして コロナ危機の夜明け</p> <p>大きな被害をもたらした新型コロナウイルス感染症は、観光立県である沖縄県でも大型休暇のたびに流行を繰り返している。そこで、医療と行政のみならず、観光、飲食業界などが連携し、感染拡大を抑止するために取り組んできた。また、重症化リスクの高い高齢者を守るため、これまで以上に医療と介護の連携を強化する必要がある。本講演では、感染症医と在宅医、そして行政医の立場で沖縄県の対策に従事してきた立場から紹介する。</p>	<p>沖縄県立中部病院 感染症内科 副部長 高山 義浩 氏</p>
10:10～10:30	休憩	
10:30～11:40	<p>[講演]</p> <p>「ただいま」「おかえり」って言いあえる まちを目指して ～シトラスリボンプロジェクト 15ヶ月間の活動報告～</p> <p>コロナ関連差別のニュースをきっかけに始まった「シトラスリボンプロジェクト」。2020年4月、市民有志6名によって細々と始めたプロジェクトは、思いがけず拡がりました。立ち上げから現在に至るまでの軌跡を振り返るとともに、コロナ禍取束後を視野に入れ、プロジェクトが目指す『ただいま』『おかえり』と言いあえるまちの実現に必要なことは何か、参加者の皆さまと一緒に考えてみたいと思います。</p>	<p>「ちょびっと19+」共同代表 松山大学 法学部 准教授 甲斐 朋香 氏</p>
11:40～12:10	閉講式	